

わくわく子どもの池プロジェクト活動報告 墨田区立菊川小学校（2025 年 10 月活動）

前年（2024 年）に続き、飼育・栽培委員会の子どもたちとともにビオトープのお手入れと観察の活動を行いました。約 1 年経過して、何か変化はあったでしょうか？

ビオトープの観察とお手入れ（2025 年 10 月 31 日屋外活動）

委員会の子どもたちを迎えたのは、1 匹のカマキリでした。夏を越えて草が茂って、カマキリのエサになる昆虫などがいたのかもしれないね。



昨年はイトトンボとシオカラトンボのヤゴが数匹だけでしたが、今年はヤゴの数が増え、水棲の小さな貝たちも見つかりました。ヤゴは昨年と同じく、イトトンボとシオカラトンボが見つかりました。

さらに、画面の下端には体の大きなギンヤンマの仲間のヤゴの抜け殻が確認できました。

ビオトープに棲めるヤゴ（トンボ）の種類が増えるのは、ビオトープがうまく生きものすみかになってきている証拠で、とても嬉しいことです！

しかし、ビオトープの池の中の草が伸びすぎて水面が隠れてしまうと、新しいトンボやほかの生きものが池を見つけることができません。今年も水面が見えるくらいに草

を刈って、お手入れ終了です。

造成活動にボランティア参加した当社社員からは、以下の感想が寄せられました。

「2年前のビオトープの再造成では、土を掘ってシートを張り、池を作っていました。本当にここに生き物が住んでくれるのかな？と少し不安でしたが、今回こんなにもたくさんのヤゴが育つ場所になっているのが見られて、嬉しく思いました。

大人になると虫を怖がったり、汚れることを避けたりするようになりますが、参加してくれた子どもたちは、目の前にあるありのままの自然を受け入れ、怖がる様子もなく、池の観察を楽しんでいました。

自然との関わりの中で、恐怖心や嫌悪感よりも探究心を優先し、貴重な体験をしていると感じました。次の春にはどんな生き物が住んでいるのかと楽しみです。」

菊川小学校の近隣の方も、ときどき池の様子を見てくださっているそうです。

地域に根付いたビオトープになり、来年はまた違う生きものたちに会えるといいですね！